

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400709		
法人名	有限会社ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村 みかん(1階)		
所在地	札幌市手稲区富丘3条3丁目7番7号		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&lijyosyoCd=0170400709-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和5年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、約9年間グループホームを運営しておりました札幌市手稲区稲穂から、平成23年8月に新築し、移転致しました。そして、令和3年3月には2ユニットとなり、新規移転致しました。「笑う」という人間が持つ素晴らしい力、「笑顔」が人を癒す力、そんな人を幸せにする「笑顔」をスローガンにしています。暮らされている方、働いている職員、お越し下さる方全員が「笑顔」になれる「笑顔の村」を作っていきたいと全職員で取り組んでいます。また、家庭的な雰囲気の中で、心穏やかに充実した日々を送れるよう、利用者一人ひとりの要望等を尊重し、大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路に程近い距離にありながら静かなエリアの住宅地に位置する2階建2ユニットの事業所で、12月に開設22年目を迎えます。地域ニーズに応じて2ユニットとなり一段と賑やかに関連な運営に取り組んでいます。地域とは良好な関係性が維持されています。職員は利用者の楽しめる行事やレクリエーションを豊富に提供し、毎月の「いっちゃん音楽祭」は利用者がたっぷりと歌ったり、ピアノ、ハンドベル演奏にもチャレンジしています。夏祭りも好みの浴衣を着て盆踊りやお神輿担ぎ、縁日、職員歌謡ショーなど拍手喝采の盛り上がりでした。食事支援は手作りに拘り、利用者の好きな献立や行事ごとの季節感ある料理、駄菓子屋さん、スマイルカフェなどワクワク感の増すネーミングで多彩な食を提供しています。利用者は家事の役割を担い、ADL低下予防の運動、手芸や習字、キャップ絵合わせ、個人の趣味事なども職員は黒子になってサポートしています。介護計画では、24時間アセスメントシートを活用し利用者の生活がより良いものとなるよう取り組んでいます。家族への通信類も紙面豊かに発信し、看取り支援にも尽力し家族から感謝の意が伝えられています。利用者の意思決定支援では、どのような暮らしをしたいかを利用者の意見を取り入れて臨み、権利を擁護する姿勢に優れています。職員は、人生の先輩として敬う気持ちで利用者へ接していきたいと述べています。利用者同士の楽しい会話や生き生きとした姿が窺える、豊かな生活を支援している事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝申し送りの時に復唱し、理念に基づいて良いサービスを提供出来ているか、常に念頭に入れながら日常のケアに取り組んでいる。	理念はパンフレットへの明示や事業所内要所へ掲示しています。毎朝の申し送り時には、理念と1年間の目標を職員と一緒に利用者も音読や暗唱するなど、1日の始まりを笑顔の村の皆々が大切にすべき事として共有しています。理念が事業所全体のものとして浸透し、運営と支援に生かされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とつながりが持てるよう、町内会に加入し、連携をはかっている。	町内会に加入し、運営推進会議へ役員の方の出席の協力が得られています。相互交流は来年度から徐々に再開する予定です。地域の方々とは散歩時に挨拶を交わしたり、利用者が戸外で洗濯物干しやラジオ体操の際に、会話をするなどにつきあいが継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症に対しての相談窓口として、いつでも利用して頂けるよう、環境を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況報告や活動状況の報告、ヒヤリハットの報告等を行っている。議事録を送り、意見や質問等があればお聞きして、返答を次回の議事録に掲載している。	運営推進会議は町内会役員や家族、地域包括支援センター担当者の出席を得て開催しています。報告事項にもつきメンバーから意見等を得ています。案内、議事録を関係者全員に送付し、欠席の関係者からも意見や要望を得る仕組みがあり、評価がなされています。	議事録に職員の入退職や異動なども充足して報告し、運営推進会議関係者による情報把握やモニターに資するよう取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や区で開催される管理者会議の内容を、情報交換している。	市や区の担当部署とは、主に統括施設長が窓口となり運営に関する案件や制度上における書類提出等を行い、適正な運営の維持に向け協働関係を築いています。感染対策では、保健所とも連携し健康管理支援に取り組みました。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針に基づき、3か月に一回、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を行っている。玄関は防犯上の理由で施錠をしていますが、利用者の自由な活動に十分配慮し、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を定期開催しています。委員会では身体拘束チェックリストを用いての確認や、利用者の状態像を検証し、より良い支援のあり方や環境について職員間で協議、検討がなされています。年2回以上、これらに係る内部研修を実施しています。玄関は防犯上の理由により昼夜施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に係るマニュアルをもとに、職員研修を行っている。職員同士、言葉遣いや対応に関し注意し合うようにして、十分な理解を図り、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度の理解に努めており、利用者様が活用する為の話し合いや関係機関への橋渡しができるような体制が整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、時間をかけ、分かりやすく説明している。利用者様やご家族の不安や質問等を聞き入れ、十分理解し、納得を得た上で手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの意見や要望等が出た場合は、直ぐに個人ノートに記入し、申し送りやミーティング等で話し合い、全職員で対応策等を検討し、ケアの反映に努めている。	利用者の家族を案じた「帰りたい」との訴えには、受容しつつ本人に合わせた落ち着いた言葉を伝えています。1日の始まりに、利用者のしたい事の聞き取りや職員側の提案を伝える時も賛否を問うています。家族とは接する機会等で気軽に意見等を出してもらえようとし随時対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見を受け止め、働きやすい環境作りにも努めている。いつでも意見や提案、相談等に耳を傾け、サービスの向上に努めている。状況に応じて個人面談を行い、職員の意見を大切にしている。	代表者や統括施設長も事業所に訪れ現場職員と話す機会や管理者以外にもリーダー管理者へ意見等を伝えられる環境を整えています。管理者は随時、職員の相談等に応じたり、必要時に面談しています。ホーム会議での職員意見や提案が活発で一緒に話し合い調整しています。職員は1年交代で各業務分掌を担い運営に携わっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しており、役職を就けたり、手当を支給する等、職員環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はeラーニングオンライン研修に参加し、質の向上に努めている。また、働きながら資格を取得した職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市や区で行われる勉強会では、意見交換や事例検討が行われ、内容を報告し、サービスの向上に活かしている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に管理者と計画作成担当者が面談を行い、利用者様が日常的に不安な事、悩み事などを把握し、ミーティングで話し合い、円滑なコミュニケーションが図れるように取り組んでいる。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時、利用者様とは別室にて家族からの要望や不安を伺い、希望に沿うよう取り組み、新しいホームで安心して生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握する中で、グループホームの役割を説明し、ほかのサービスを紹介し、本人にとって必要なサービスとなる様にケアプランを作成し、本人、家族と共に考えていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に支え合い、共に生活する」という意識を持ち、楽しく生活を送るようにしている。職員は人生の先輩から学ぶという姿勢で助言を頂いたり、励まし合ったり、助け合って生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは利用者様の日々の暮らしの中での出来事等の情報共有に努めている。ご家族が来訪の際は、ご本人の様子をお伝えしたり、ご家族から伝えられていない事を知らされたり情報を得ている。病院受診の同行や、行事への参加等、ご家族と共に支える支援を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は新型コロナで外出を控えていますが、ご家族との面会は、マスクを使用して自室での面会を行っている。	面会が可能となり、居室で家族と和やかな時間を過ごせるようになりました。電話や手紙の希望がある時には支援を行っています。職員の出退勤時に利用者から労いの言葉や挨拶、夜勤者には心配事を語るなど支え合う関係の元に、職員は利用者の馴染みの人となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適度に関係を調整しながら席替えをしたり、自分の時間をくつろいで過ごすことも大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も情報を得て病院のお見舞いや、亡くなった時は知らせて頂き、訪問している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や希望をなかなか伝えられない利用者様には、表情や態度、動作を観察してご本人の思いを把握するように努めている。	職員の利用者への関わりが多いことから、利用者からの意見等が集まりやすく、また、利用者同士が会話を弾ませ話を進める機会も多分に有るので、「何を話してるのですか？」と職員が同席し思いや意向を知れたり、短冊に思いや願いを認めたのを見た際にも本意を把握しています。難しい場合は職員で話し合い本人本位を検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に面談を行い、ご家族やご本人からお話を伺っている。新たに得た情報は共有している。入居後も折に触れ少しずつ情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を記入し、申し送り時に共有している。普段と違った事や様子に気付く努力をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意見を元に、ニーズに対しサービスが合っているかを話し合い、変化があった時はその都度見直しを行い、実行している。	アセスメントはセンター方式を活用し、介護計画作成時毎に更新して分析し、評価は職員が取り組んでいます。朝の申し送り時やホーム会議の利用者カンファレンスで状態像を話し合い、より良い支援を検討しています。介護計画期間内にも変化があれば見直し、変更点を家族に文書で伝えるなど、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の生活を記入している。注意事項や変わった事はノートに記入し、申し送りでも情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節毎にリビングの飾りつけを交換している。お祭りやクリスマス、お誕生日会を開催する等、家庭的な雰囲気や昔を思い出しながら楽しく暮らしていける様、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は近所を散歩したり、庭で体操を行っている。隣人、近所の方と会話を交わす事もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には訪問診療で対応しているが、主治医、ご家族との相談で医療機関を受診する事があり、ご家族が同行出来ない時はケアワーカーが同行している。	利用者全員が2週に1度の訪問診療のある協力医療機関を主治医とし、歯科も希望者が往診を受けられる態勢です。専門他科受診は家族の協力も得て対応しています。毎週、看護師が医療連携で健康管理支援に訪れ、適切な医療が受けられる支援への協力を得ています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回、看護師による健康チェックを受けて、日々の体調管理に努めている。体調の変化は全て報告し、受診の指示や判断をしてもらう事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前までの生活状況の情報を提供している。入院時、退院時には担当看護師、相談員、ご家族との情報を共有し、連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族に看取りの説明を行い、終末期をどのように迎えたらいかが職員とご家族での話し合いをし、方針を決めている。ホームでの看取りを希望された時はご本人、ご家族、主治医、看護師との連携による終末期を支援している。日常生活の中で、本人の意向が聞かれた時は、書き留めている。	「重度化した場合における対応指針」「終末期の対応に関する意向確認書」を利用契約時に説明し同意を得ています。医師の判断に基づき、医師、家族、管理者間で今後の方針を話し合っています。事業所では多数の看取り支援に尽力しており、前後にカンファレンスを実施して尊厳ある終末期支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームでの研修を、内容を変えながら毎月行い、ロールプレイングを兼ねて実行出来る様、繰り返し行っている。コロナ、ノロウイルス、インフルエンザの対応の必要性の共有をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、日中帯、夜間帯に火災、地震等を想定して防災訓練をしている。防災の担当を設け、毎月物資の確認、火元、コンセント周辺の確認を週一回行っている。また、会議の際に報告する事で、職員間で共有している。	令和5年2月早朝・火災想定、8月日中・水害想定、同月に日中・火災想定避難訓練を消防署の協力を得て実施しました。職員のみで収容避難場所への移動訓練も行っています。災害備蓄品、協力者を確保しています。自然災害発生時における業務継続計画を策定しています。	指定収容避難所で避難生活を送る場合の想定される課題等の抽出や対策について、運営推進会議を通じて協議や情報共有に取り組むのも有効と考えられますので実現に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、毎月の記録等は、外部に持ち出さない決まりになっている。声掛けの際、目上の方への言葉遣いに十分している、	ホーム会議で、言葉かけや呼び方、不適切ケアについて話し合い、全体の場で接遇のあり方を再確認しています。毎年、職員はプライバシーに係る研修を受講しています。個人記録書類は保管場所を取り決め管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食後、希望を聞く事で一人一人の行いたい事を理解し、一緒に準備している。また、自ら手伝いを申し出て来られ、一緒に行える様にしている。その日の仕草や状態を見ながら会話したり、声掛けする事でその時どうしたいのか聞き取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日常生活の中で声掛けし、行いたい事、好みを聞き、お勧めしている。また、近くの席の方も興味を持たれた際は、皆で一緒に行う事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、気温や天候の話題から、一緒に衣類を選んで頂いている。口腔ケアの際、鏡を見ながら身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの食材を利用した食事会を行う等の工夫をしている。レクリエーションを通じて一人一人の希望を聞く等し、次月のメニューに加える工夫をしている。献立を伝える事で興味を持って頂いている。	職員が利用者の希望も反映させ、献立を作成し昼・夕食は調理専門職員が料理しています。毎食の主食のお粥の希望にも対応しています。節句ではその季節感を盛り込んだり、誕生会では本人の好物、母の日父の日も趣向を凝らし、多彩で楽しい食事を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分目標を一人一人設け、無理なく達成出来る様支援している。苦手な食材は刻む等して目に見えない工夫をする事で摂取して頂ける様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、夕食後には義歯消毒し、保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、排泄の間隔を空け、声掛け誘導を行っている。また、赤み、痒みが伴う場合は陰部洗浄し、医師から処方された軟膏を塗布する等、いつでも相談できる体制が整っている。	職員は利用者の排泄パターンやサイン等を24時間のアセスメントや話し合いにより把握しています。本人に合わせた声かけや、気分を変えて階段昇降からトイレに誘うなどスムーズな誘導に努め、日中、全員がトイレで排泄ができています。夜間帯はベット上で衛生用品を交換する利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	室内歩行、階段昇降等の運動を行い、個々に応じた予防を行っている。便秘になりやすい利用者様については医師から処方された下剤に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の体力や体調、季節に合わせた入浴の時間を考慮している。また、あせもや擦り傷、陰部の状態等の確認を行っている。入浴中も楽しく安心して入浴出来る様、支援をしている。	曜日を問わず午前午後の時間帯で柔軟に入浴支援を行っています。先に入浴した利用者の感想を聞いて、「私も入りたい」など、利用者は入浴を楽しみにしています。湯船に浸かるのが難しい方は、足浴しながらのシャワー浴を行っています。浴後は、好きな飲み物を提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操やレクリエーションを行いながら、ゆったり過ごせる時間も作るなど、生活にメリハリが出来るように努めている。湿度、温度を確認し、調整、安眠に努めている。日中でも体調などによっては自室で休息を行って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフノートで利用者様の薬の把握に努め、ダブルチェック、トリプルチェックで間違いのない様にしている。薬箱は色分けをして、誤薬のない様注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの身体能力や嗜好を考慮しながらレクリエーションを楽しめるよう提供を行っている。また、洗濯物畳みや食器拭き、拭き掃除等のお手伝いを日常的に行う事で、自身の役割ととらえ習慣化につながっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前の様に町内行事への参加や外出行事などの実施が難しい状況の中で、職員と共に近所の散歩や、プランターの花や野菜への水やりの機会を持ち、気分転換が図れる様支援している。	散歩は事業所周辺に出かけ、天候の良い日は毎日、洗濯物干しや取り込みをしに出たり、ラジオ体操も戸外でする時もあります。季節により外にベンチ類を設置して外気浴や花火をしたり、飲食するなどでの気分転換や、プランターの植栽の手入れなどもしています。今春は桜見学に出かけることができました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自身がお金を持つ事の大切さを職員が理解しながら、利用者様にこまめに聞く事で不便さを感じる事のないよう買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望されたり、ご家族から電話がきた際には、ゆっくりと会話ができるよう配慮を行っている。また友人などへ手紙を書きたいとの希望があった際は便箋や切手等の用意を行っている。利用者様の希望、願望に応える事に心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、職員と入利用者様が一緒に作った壁画等を飾り、季節感を出している。また、窓からは山並みが見え室内にいながら四季を感じる事ができる。	全体的に清潔感のある明るい造りで、利用者職員が四季折々に制作した壁面装飾や書道作品類を美観良く掲示しています。山の景色も目に入り四季が感じられます。調光に配慮があり、温湿度も管理されています。好みの場所で好きなことをして過ごせるための居場所と、全員が楽しく集える環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓テーブルの他、テレビやソファ、本棚等を設置している。好きな時にソファでお喋りしたり、本を読んだりして楽しんでいる様子が見られる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持参した馴染みのあるタンス、テレビ等安全に心地よく過ごせる様、配置している。また、お気に入りのぬいぐるみ、小物、家族写真等を飾っている方がいる。レクリエーションで作成した飾り物も部屋に飾られている。	居室入り口には視覚にも配慮し立体で名前を表示しており、利用者は場所間違いなく自室と認識ができています。予めの備え付け備品は最小限にし、馴染みの家具や調度品の十分な持ち込みができるようにしており、自由に配置してもらっています。テレビ、仏壇、ラジオを置いている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、安全に歩ける様、トイレ、浴室には立ち上がり動作がスムーズに行える様、手すりを設置している。歩行の障害になる物は置かない工夫をしている。リビング、通路等には余計な物を置かない様、配慮をしている。		